

## 池上山宝珠寺様で落慶式

静岡県浜松市東区上新屋町



完成した宝珠寺様の山門と鐘楼

去る一月十九日（日）、浜松市東区上新屋町の宝珠寺様（臨済宗方広寺派・稲垣邦円住職）において、山門と鐘楼の落慶式が執り行われました。

式典当日は地元浜松市出身でソ

チ五輪に参加した清水小百合選手の激励会や弊社社長による講演「物づくりは人づくり」も行われ、落慶式としては異例な催しに、檀信徒を中心に集まった大勢の人々は大いに盛り上がりました。

ソチ五輪と言えば、女子ショートトラック三〇〇mリレーに清水選手とともに参加した伊藤亜由子選手も浜松市出身です。浜松は産業ばかりではなく、人材も豊富です。

## 普賢山閑田院様で落慶式

静岡県御前崎市下朝比奈

去る二月二十五日（火）、御前崎市下朝比奈の閑田院様（曹洞宗・谷口良和住職）において、庫裡の落慶式が執り行われました。

式典当日は天候に恵まれ、春を感じ

させる穏やかな気候の中、粛々と式が進められ、参列された役員や特殊寄付者を始めとする関係者皆で完成を祝いました。

住職より「思い通りの庫裡ができて良かった。」とお褒めの言葉を頂き、感謝状を授かりました。



閑田院様の落慶式の様子

## 「お寺の未来のために」

日本テンプルヴァン(株) 井上拓郎

### 「習慣」

二月は全国的に大雪が降りましたが、皆さんは大丈夫でしたでしょうか？東京でも二〇年ぶりの大雪となり、公共交通機関は麻痺状態でした。幸い土日に降った為、帰宅難民などにならずに済んだことがせめてもの救いでした。

同じ時期にソチで冬季オリンピックが開催されておりますが、東京よりもソチのほうが最高気温が高いことに驚かされました。私がこの原稿を書いている時点では、スノーボード、ハーフパイプで平野歩夢選手（十五歳）が銀メダル、平岡卓選手（十八歳）が銅メダルを獲得し、フィギアスケートでは、羽生結弦選手（十九歳）が金メダ

ルを獲得しました。また惜しくも四位で表彰台を逃した高梨沙羅選手（十七歳）も、よく健闘したと思います。それぞれの競技で感動を与えて、さらにインタビューなどでは、とても一〇代とは思えぬしっかりとした受け答えで、感心させられました。そこで今回は、お寺の若い世代の方たちへ向けて書きたいと思います。あくまでも私見です。ご容赦下さい。

最近、地区仏教会や宗派の青年会のように副住職の皆さんが多くいらつしやる会合などに参加する事があります。真面目にこの先のお寺の事についてディスカッションする事があります。この先、人口が減少し、宗教離れや葬儀の簡略化、直葬などが増え、今まで通りの宗教活動としての収入（喜捨）の構図が変わり、今までのやり方（慣習）が通用しなくなるかも知れません。今のこ

住職の世代では「自分と副住職の世代までは何とかなりそう」と言う意見を聞きます。もちろんそうでないご住職もおりますが、今の副住職世代では「自分の代で何かを変えたい」と思っている方が大勢います。やり方はそれぞれの寺院の置かれている環境によって違うので一概に言えませんが、何かを変えたいのであれば、新しい事を始める事も一つの方法だと思います。新しく始めた事を継続し習慣とすれば、いずれそれがお寺の慣習になるのだと思います。失敗を恐れて何もしないよりは、可能性を信じて挑戦することが大切です。そんなお寺のお手伝いをしていきたいと私は常々思っております。

（次頁へ続く）

## 「広報の有り方」

私は公益財団法人全日本仏教会（以下、全仏）から委嘱を受け、広報委員会の委員を務めております。昨年の事になりますが、第一回目の委員会では、新しい花まつりのポスターや絵はがき（全仏のホームページから無料でダウンロードできます）などの制作について議論致しました。ポスターは四種類あり、集計によりまずと一番人気は「白象と仏旗 短冊バージョン」だそうです。子供や若い年代の方々の目にも留まるよう親しみやすく、可愛らしいデザインとなっております。このように今までには無かったデザインのポスターを制作したことも新しい取組（挑戦）なのだと思います。

先日当社に、四国のお寺さんから涅槃法要のリーフレット（チラシ）制作のご依頼

がありました。「堅苦しくなり過ぎず、見た方が法要に行ってみたいと関心を持ってもらえるような内容で」とのご要望でしたので、挿絵や、いろいろな書体を組み合わせたりして、どの年齢の方が見ても関心を持つてもらえるよう工夫し制作致しました。

花まつりのポスターも涅槃法要のリーフレットも、伝えたい事は伝えたい方の関心を引かなければ伝わりません。人々の関心は時代とともに変化します。伝える側も変わらなければならぬのかも知れません。

### 続々と解体法要

静岡県西部各地で

去る一月二十六日（日）、浜松市東区豊町の金光山正光寺様（臨済宗方広寺派・松尾正澄住職）で、本堂と位牌堂の解体法要が執り行われました。上棟は四月の予定です。

続いて一月二十八日（火）には、浜松市浜北区寺島の松源山西隠寺様（臨済宗方広寺派・山上之瑛住職）で、本堂解体供養が執り行われました。上棟は五月の予定です。

さらに二月三日（月）にも、浜松市中区文丘町の経王山常住院様（日蓮宗・杉浦則雄住職）で、庫裡の解体法要が執り行われました。上棟は四月の予定です。



西隠寺様の解体供養の様子

# 知って得する

## 麦酒（ビール）の話



今号が配布される頃は歓送迎会の時期だと思えます。歓送迎会といえばお酒が付き物で、飲み会の最初のビールでの乾杯は、よく見られる光景です。今回はビールの話です。

ビールの歴史は古く、古代メソポタミアで紀元前三〇〇〇年頃には作られていたとか、古代エジプトでもピラミッド建設に携わった労働者達に配給されていたとか、記録が見つかっています。当時のビールは、大麦を水に浸けて発芽したもの（麦芽）を乾燥させ粉々にし、それを水で練って焼いたパンを水に浸してふやかし、ドロドロにしたものを煮沸してから冷まして自然発酵させ、その上澄みをストローで飲むものでした。味の調整や保存のためにナツメヤシなどの果実や色々な薬草などを加えていた様で、ホップもその中の一つだったと思われる。ホップが本格的に栽培され始めたのは八世紀のドイツで、主な原料とさ

れ始めたのは十四世紀の頃です。

日本では江戸末期に蘭学者の川本幸民が初めてビールの醸造を試みました。明治時代になると、現在の大手ビール会社の元になる醸造所や規模の小さな醸造所もたくさん出来ましたが、酒税法が改定されると小さな醸造所は倒産したり大手に吸収されてしまいました。一九九四年に酒税法が改正されると地ビールブームが起きましたが、大手のシェアに対して一%にも満たないのが現状です。

ビールは用いる酵母によって上面発酵のビール（エール）と下面発酵のビール（ラガー）に大きく分かれます。エールは複雑な香りと深いコク、フルーティな味が特徴で、ペール・エール、アルトビール、ヴァイツェン、スタウトなどがあります。ラガーは冷却技術が確立されてから普及したため、エールよりも歴史は浅いですが、今ではこちらの方が

主流で、黄金色と比較的すっきりした味が特徴で、ピルスナー、ボックなどがあります。

生ビール（ドラフトビール）の定義は国によって違いますが、日本では酵母菌の有無ではなく、熱処理されてなければ生ビールと呼ばれます。

ろ過されるビール酵母はミネラルやビタミンB類が豊富で、精製されてサプリメントとして人気です。ビールにもミネラルやビタミンは含まれていて、意外にもカロリーはそんなに高くなく、一日に中ジョッキ一杯程度であれば健康に良いという研究結果もあります。飲み過ぎと「つまみ」に気を付けましょう。

### 編集後記

前号一面一段目の九行目と写真の下のキャプションの稲盛氏の漢字が「稲森」になっていましたが、正しくは「稲盛」です。